







3. 透析期間と発生頻度は無関係である.
4. 診断に造影 MRI が有用である
5. 高齢の維持透析患者に多い.

難易度（\*）

解答：1, 2

解説：透析患者では腎癌が健常人に比較し高率に発生することが知られている。特に透析歴が長い患者では後天性嚢胞性腎疾患（acquired cystic disease of kidney：ACDK）関連腎癌の比率が増加し、透析患者にみられる腎癌の約 8 割を占める。ACDK は透析導入前の患者でも 12%に認めるが、透析期間の長期化に伴い頻度は増加し、10 年以上の維持透析患者においては約 90%に合併し、男性、若年者に多く認める傾向がある。ACDK 関連腎癌の予後は一般に良好であるが、透析歴が長いほど悪性度の高い癌が発症する頻度が増加するといわれており、腎癌診療ガイドライン（日本泌尿器科学会）でも定期的なスクリーニングが推奨されている。多数の嚢胞に囲まれた腫瘍として発生することが多く、ダイナミック CT で造影剤効果に乏しいため、定期的な超音波検査が早期発見に有用である。造影 MRI は腎性全身性線維症を発生する危険性があるため避ける必要がある。

出題者：講師 小林高久

続いて血液科からの問題・解説・解答です。

問題：

57 歳男性。2 週間前より続く腹部膨満感と発熱を主訴に、近医を受診した。血液検査で腎機能障害を認め、腹部エコーにて腹水と多発腹腔内リンパ節腫脹、肝脾腫を指摘されたため、当院紹介となった。当院での血液検査の結果は以下のとおりであり、緊急入院のうえ血液透析導入となった。

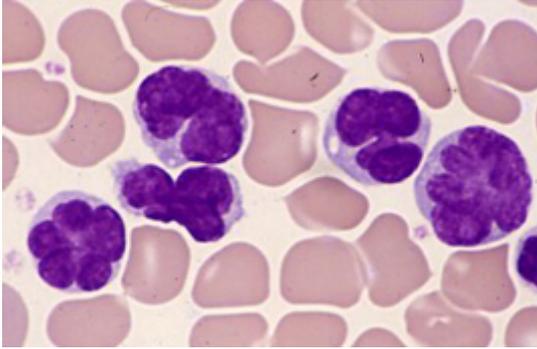
WBC20500/ $\mu$ l、Hb14.3g/dl、Plt19.4 万/ $\mu$ l、BUN125mg/dl、Cre9.72mg/dl UA27.7mg/dl、LDH 1812mg/IU、補正 Ca 15.8mg/dl、可溶性 IL-2R 95200

既往歴) 5 年前に交通外傷。輸血を受けた

家族歴) 母が約 20 年前に死去、詳細不明ながら頸部リンパ節腫脹があった

生活歴) 鹿児島県出身

末梢血液像を呈示する。腹水中にも同様の異型細胞が増生していた。



この症例について正しい文章はどれか。2つ選べ

- a) 遺伝性疾患と考えられる
- b) 血清抗 HTLV-1 抗体陽性である
- c) 異型細胞は CD20 陽性である
- d) 5 年前の輸血によって感染した
- e) 意識障害を来している

難易度 (\*\*)

### 解説・解答

呈示した写真は、花びら型の核を持ち N/C 比の大きな異型リンパ球であり、**flower cell** と呼ばれる。成人 T 細胞性白血病リンパ腫 (ATLL) 急性型の症例である。

ATLL は、ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型 (HTLV-1) という RNA 型のレトロウイルスが、ヒトの CD4 陽性 T 細胞に感染し腫瘍化することによって引き起こされる病気である。

HTLV-1 の感染経路は、「垂直感染」として母乳、胎盤、産道を介して、「水平感染」として性交渉、輸血が挙げられる。輸血については、1986 年より全国の血液センターで献血時に HTLV-1 抗体のチェックがなされており、現在は輸血による感染の心配はない。また性交渉からの感染でキャリアから ATL 発症へ至った報告はほとんどない。したがって ATLL 発症者のほとんどは垂直感染者であるため、HTLV-1 陽性の妊婦に対しては授乳を避けるような指導が行われる。

HTLV-1 キャリアは、日本では九州地方に多く、他に紀伊半島、三陸海岸などに分布する。HTLV-1 キャリアは全国に約 120 万人と推定され、ATL を発症するのは、HTLV-1 キャリア 1 万人につき 6 人程度とされている。

ATL は、急性型、リンパ腫型、慢性型、くすぶり型の 4 つの病型に分類される。

ATLL の症状としては、リンパ節腫脹、肝脾腫、皮膚症状 (皮膚紅斑、皮下腫瘤)、発熱、



味深いお話しをお届けすることができました。じつは丹波先生は私が所属する腎臓内科の先輩でもあり、私が研修医時代からお世話になっている先生の一人で、大変尊敬しております。緩和に関していろいろ相談にのっていただける気さくな先生で、私にとっても貴重な存在です。丹波先生ってどんなひと？ときかかれたら、亀井先生のような人！と答えてます。え？亀井先生って誰かって？それは国政で有名な亀井〇香先生です。もっともそんなことを知っているのは私だけで、全然似てねえぞお〜！と御叱りを受けるかもしれません。自治医大での研修が楽しみです（笑）。

それでは、みなさん、また後半号でお会いしましょう！

連絡先：

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 自治医科大学

腎臓内科 秋元哲（あきもとてつ）

E-mail: 13naikatsu@jichi.ac.jp



新興・再興感染症や新たな高度耐性菌が社会にとっての重大な問題となっている今日、医育機関である大学病院においてわが国の医療状況に適した感染症科の活動を模索し、社会に広く提案することが喫緊の課題となっています。自治医科大学附属病院では、2004年に感染制御部を開設した後、2006年には感染制御部とは別組織の診療科として感染症科を設置しました。入院症例のコンサルテーション業務を中心とした組織横断的に本格的な感染症専門的診療を展開しています。感染症診療では、臨床診断、患者背景や基礎疾患に基く臨床推論から起病菌を推定したエンピリック・セラピーにとどまらず、微生物検査の結果から起病菌を判断して、さらに起病菌が確定した後にはよりスペクトラムが狭く、かつ臨床的にも適切な抗菌薬ヘデエスカレーションすることが目標となります。感染症は急性疾患である場合が多く、迅速な対応が必要であることから、至適抗菌療法を実践するために週3回のチャートラウンド、必要に応じた指導医による回診を実施しています。チャートラウンドでは毎回30例程度の症例について議論しており、総合的に症例の全体像を把握することを重視しつつ、適切な臨床推論がなされていることを確認しています。一方、海外渡航が日常的となっている現状では旅行医学の領域での実践的な診療を提供する必要もあり、総合診療内科や医動物学教室、さらには地域病院との連携も図っています。さらに2014年4月から自治医科大学附属病院は第一種感染症指定医療機関となっており、必要な施設と診療体制を整えつつ、感染症科では一類感染症、新感染症にも直接に主治医として対応する機会も持つことが出来るようになりました。

また、総合診療内科が2013年秋に新しい体制で開設されてから、病棟には感染症科スタッフが常駐しており、一般的な市中感染症の症例や診断がついていない発熱症例などの入院管理にはつねに感染症科がコメントできる状況を整えています。そして総合診療内科のチャートラウンドには感染症科スタッフが数多く参加します。

残念ながらHIV感染症が増加の一途を辿っていることから、HIV診療に対しては専門的診療を提供する必要があります。感染症科外来では数多くのHIV/AIDS症例の診療にあたっており、HIV/AIDS症例については入院管理も担当する場合があります。抗レトロウイルス療法cARTが普及した今日、HIV診療は外来通院管理が中心となっています。しかし、ニューモシスチス肺炎の発症を契機としてHIV陽性であることに気づく症例もまだまだ少なくなく、HIV/AIDS症例の初期からの経過を見る機会も少なくありません。

感染症科は感染制御部や臨床検査部・細菌検査室との連携も緊密にとりつつ、医療現場に求められる感染症専門医の育成を第一の目標に考えています。ほとんどすべての診療科からコンサルテーションがありますので、自治医科大学附





意が必要である。

b.c は便秘の原因となり、対策として下剤を併用することがある。

## 問題 2

潰瘍性大腸炎の治療に用いられる生物学的製剤はどれか。2つ選べ。

- a. イマニチブ
- b. リツキシマブ
- c. セツキシマブ
- d. アダリムマブ
- e. インフリキシマブ

難易度：\*\*

正解： d.e

解説：

- a. Bcr-Abl チロシンキナーゼ阻害薬。慢性骨髄性白血病や急性リンパ性白血病の治療に使用される。
- b. 抗 CD20 モノクローナル抗体。B 細胞性非ホジキンリンパ腫の治療に用いられる。
- c. 上皮成長因子受容体 (EGFR) チロシンキナーゼ阻害薬。大腸癌の治療に用いられる。
- d. e. 抗 TNF $\alpha$  抗体製剤。クローン病、潰瘍性大腸炎ほか関節リウマチなどにも使用される。

出題者：講師 砂田 圭二郎

続いて**神経内科**からの問題・解説・解答です。

問題：

64 歳男性。強直間代発作を繰り返し、昏睡状態のため搬入された。意識は JCS III-200。身長 166cm、体重 58kg。体温 36.6 度。脈拍数 84/分、整。血圧 140/76mmHg。SpO<sub>2</sub> (room air) 94%。初療室で強直間代発作を認める。適切でない初期対応はどれか。1つ選べ。

- a 気道確保、酸素投与。



会はなかなかのもので、まさにデータに基づく感染対策を“やってるぞ！”と思わせてくれる内容です。皆さんが自治医大に来られた暁には、一緒に感染対策頑張ろう！

それではみなさん、また来年お会いしましょう。よいお年をお迎えくださいな！ ごきげんよう！！

連絡先：

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 自治医科大学

腎臓内科 秋元哲（あきもとてつ）

E-mail: [13naikatsu@jichi.ac.jp](mailto:13naikatsu@jichi.ac.jp)

Happy Holidays!

